

環境影響評価準備レポート 意見

私は八代市千丁町で生まれて祖父の代からイグサ、米を作り 120 年以上になります。球磨川の清らかな水の恩恵を受けて生活が成り立っております。

小学校では球磨川まで遠足があり河原で食事をしたり、子供が小さい頃は球磨川にハエ釣りに連れて行ったりしたものです。

ここで述べた意見は公開される事を望んでおります。球磨川水系河川整備計画意見書では、大半はダム反対意見にも関わらず公にされず、うやむやにされた感があります。知事のこれまでの様な聞いたふりに付き合いたくはありません。

昨年 12 月環境影響評価準備レポートの説明会があったようですが、何百ページと書いてあるのに説明会が 1 時間という制限を設けています、何が説明できるのでしょうか？説明すればするほど矛盾が出るレポートなんでしょう。

八代市では、球磨川水系でない中心部からは 1 時間以上離れた泉町で高齢者には危険な夜に開催されあたかも説明会を開いたという、既成事実を造りたいだけの説明会ではなのか？

人吉では質問者は限られて時間が来たら打ち切られるという。何の為の？誰の為のダム建設なの？という思いが住民にはあります。

令和 2 年 7 月の豪雨で、人吉市や坂本町の沢山の友人が被害を受け、私も支援物資を持って行ったり泥出しの支援等に行き被害の甚大さに驚いたものです。そして 2F や屋根の上に逃げてヘリ等で救助された何人もの人が、市房ダムから放流があるとの情報があった時は「これで死ぬと思った。」と言っていました。

被災者がまだ避難所から被災した家の片付けに通って何の見通しも立たない中、突然知事が流水型川辺川ダム型に言及した事には唖然としたものです。知事の言葉には、これまでの川辺川ダム建設が止まってからダム建設に代わる治水対策が検討されてはいたものの何も実施されなかった事には説明も反省もなく、あたかもダムがあつたら被害がなかったかのように話しました。

球磨川には昭和 28 年荒瀬ダムが出来、瀬戸石ダム、市房ダムが出来ました。流域住民はダムが出来れば水害が無くなる、魚が取れて観光が盛んになると言われ建設を受け入れました。しか実際はダムが出来るときに水害が酷くなりました。

下流の瀬戸石ダムでは午前 3 時頃からゲート全開しましたが、ゲートが流れを遮り、兩岸から濁水は流れて監理棟の職員は逃げる羽目になってしまいま

した。下流の瀬戸石駅やJRの線路は見る影もなく、鎌瀬橋、JR第1橋梁、坂本橋、深見橋は流されました。幸いな事に荒瀬ダムが2018年撤去され影響を与えませんでした。

流水型ダムはレポートには書いてあるように、環境に影響は軽微で川は綺麗なままでしょうか？完成したら知事がいう日本一の清流は残るのでしょうか？むしろ住民が予想するのは変わり果てた姿です。

まずダムの影響が球磨村渡までとしているのはなぜでしょうか？川辺川から流れた水は渡地区で球磨川本流の水と分けられどこかに流れるようにバイパスのようなものを作るのでしょうか？もしそういう方法が無ければ、渡まで来た川辺川の水は球磨川の水として芦北町、坂本町を通り八代海に流れます。

川辺川ダムが出来たら大きな石や砂利などが下流に流れず砂やシルトなどが八代海の生態に大きな影響を与えます。球磨川には河原が無くなりアユがいなくなり海には貝や魚が激減するでしょう。

八代市は球磨川で出来た町です。ダムが無かった頃は球磨川から流れ出た土砂が八代海へ出て干潟を作り、それを干拓して陸地が出来ていきました。アユは海から川辺川上流まで登り、アサリなどはあちこちに貝塚が出来る位食べられていました。熊本県産は外国産の貝で産地偽装して売らなければならないほど激減しました。県はよくご存じのことです。

昨年私が住んでいる地区の公民館を避難所として登録を申請しました。付近では一番高い所にあります。処が危機管理課から球磨川が決壊したら公民館の中1mの高さまで来ますと認められませんでした。他に認められた地区はありますか？尋ねたらありませんとの事でした。それでも川辺川ダムの影響はないのでしょうか？

まず令和2年7月豪雨がどのようにして被害が起きたのか検証もしていないのに何で川辺川にダムを造ったら今度のような豪雨被害は防げるのでしょうか？令和4年9月19日台風14号では2年7月水害より川辺川の水位は高かったのに下流で水害は起きていません。また2年7月JR第4橋梁がダム化して壊れ人吉地点で急激に水位が上昇したというデータがありますが。これも検証されていません。

山田川などの支流の水害は球磨川本流より早く発生して死者がでました。川辺川ダムが出来れば今回の支流の死者が無くなるということはあるのでしょうか？支流の整備、またそれに流れ込む山林の整備がなされなければまた被害はまた起きます。

坂本町の被害は人吉より先に起きました。瀬戸石ダムで堰き止められた濁流がダムゲート全開と共に下流の住民の生命財産を奪いました。幸いダム破壊は免れましたがダムは壊れる寸前でした。

しかし川辺川ダムが出来て市房ダムの緊急放流と川辺川ダムの満杯が重なれば球磨川の水量は膨大なものになります。瀬戸石ダムが決壊する恐れがあります。八代市の被害は甚大になります。川辺川ダム以前に瀬戸石ダム撤去が先でしょう

事業の目的に洪水被害の軽減としか書いてありません、ダムが出来ても洪水被害は当然のものと計画されています。洪水被害は無くならないという事ですね。

また川辺川ダムの洪水調節後の人吉地点の水量などのシュミレーションは、1/80 図面で昭和 47 年の洪水データを使っていますが、なぜもっと水量が多い令和 2 年 7 月の豪雨のデータではないのですか？また 2 年 7 月豪雨以上の雨量は無いのか？国は 1000 年に一度の雨に対するハザードマップを作っています。それに対して、球磨川の水害は 1/80 で事足りるのか？ 1/100 の洪水被害は防げないという事ですね！

ダムの高さ 107m 幅 262m 下部に常時排水口 5m*5m、5m*6m 2 個
があり合わせれば

940 3つの常時排水口の合計が現況の平常時の川幅と同じだから魚類が変わりなく行き来するとしているが、

長さ 100m にもなる真っすぐなコンクリートの河道をスムーズに上るとは考えられない。荒瀬ダムや瀬戸石ダムの魚道を何度か見たことがあるが殆ど魚の遡上を見た事はありません。

試験湛水では湛水期間を短くするため水位下降速度を 1 日最大 5m に早くして湛水期間を 70 日短くするとしているので、グラフを見ると貯水から排水まで 200 日以上掛かるということになりそうですね。

資料に洪水を貯めるのが 1 日/365 日とありますが下げるのを早くしても 1 日最大 5m しか水位が下げられないのであれば満水から下げる期間は 20 日近く掛かるのではないかと。

ダム建設後、洪水調整時一時的に SS のまき上りがありますが一時的である、と書いてありますが。いまの球磨川でも雨が降ったら市房ダムや砂防ダムからのシルト汚れが長期間に亘って流れてきます。球磨川本流は昔とは違い長い期

間濁り続けています。一時的であるはずがありません。

ダム洪水調整地内の貯水時間や冠水頻度を抑えると共にダム下流域では、アユのえさとなる藻類の良好な生育環境が確保できるよう工夫しますと書いてあるが、既存の穴あきダムでどんな工夫がされて生育環境が確保されて藻類が良好に生育し大きなアユが沢山とれているのか実例を上げて下さい。

ダム下流においては、河川生態系に必要な流量変動による攪乱を確保していますが、流量だけ確保しても排出口からは小石とシルトヘドロ等しか出てこない筈です。ダム湖では上流に大きな石その下流に中石、小石となり、砂泥が排出口近くにあり排出口から大きな石や中石などは出て来ず攪乱される筈がありません。ダム下流には河原は無くなっていき、濁りが長期間続き石にはシルトが付着して藻が付かなくなってしまいます。当然商品価値が無いダイエットアユしか獲れなくなります。既存の流水型ダムでアユが豊漁で仕方がない所をぜひ教えて下さい。

平常時3つの河床部放流施設から水が流れるわけです。3つ合わせた幅15mが現在の平常の川幅だから洪水が終わり水量が減ってきたら普通の川の状態に戻ります。と言っています。

ダムが無い今の川辺川は洪水の間約200メートルの川幅で大きな石から小さな砂まで転がって川底をさらえていきます。水量が少なくなって初めて15mの平常の川幅になるのです。洪水が終わった時には川幅一杯が削られたようにきれいになっています。そこに綺麗で栄養豊富な水が来れば石に苔が付き、虫が付き魚や動物がそれを捕らえる生態系が確保されます。

試験湛水後の一定期間の冠水によって、ダム湖内の植生が変化する(打撃を受ける)と考えられて、供用後は一時的な冠水は1日から3日程度と考え影響は小さく生育、生息繁殖環境は維持されると考えるらしいが、都合のいい短期間で済むはずが無い。グラフでは下流の影響が少ないように何日もかかって水位低下させると言っているのだから短いはずが無いし、年に何度も冠水することも考えられるし、シルトに覆われ生育が悪くなる。川辺川ダムと規模は違うが、既存の流水型ダムの現在の様子を見るとダム湖内の様子がわかるはず。それを住民と共に視察に行きましょう。

供用後下流は、ダム前との差が見られずアユの餌、藻類の剥離更新もダムが無い状態の攪乱頻度に近づけられる事を確認しましたとあるが、何処のダムで確認したのでしょうか？ ダムから流れる砂と泥シルトでは攪乱どころか、下流の石にはシルトで覆われ苔なんて生えないでしょう。既存の流水型ダムでは、ダム湖に溜まった大きな石や砂が下流に流れてしまって、溜まっていないのでしょうか？

瀬戸石ダムでも冬季水門を開放しても中流上流にはヘドロ砂利、石がもの凄いい量溜まっています。毎年運び出していますが減りません。

終わりに 約2分

私たち人類は地球が出来てから46億年、日本列島は3000万年という歴史の中で40万年というほんの一瞬しか生きていません。川の流れは地震があつたり隆起したり豪雨があつたりして長い間にできたものです。人は球磨川の流れに何にも関わっていないのです。人吉盆地が出来て溜まった水が山の間を削って球磨川となり八代海に注ぎ平野を造ってきました。これまで数限りなく大雨が降り濁流となり流れ下ってくるけど流域に住む人たちは、それを災害でなく恵みとして受け入れてきました。大雨で運んできた土砂で土地が豊かになり川や海の魚が増えていくのです。

それがわずか70年前、川を遮る荒瀬ダムが出来、瀬戸石ダム、市房ダムとダムが増えるたびに水害が酷くなり魚も貝もいなくなり、球磨川の水害と恐れられるようになりました。球磨川は何にも変わった訳でなく、只ダムが出来ただけで被害を受けるようになったのです。川辺川ダムが出来ればもっと酷くなるでしょう。

ダムを造ればいつか壊さなければなりません。日本の人口が減った時壊す資金さえ枯渇する可能性があります。何千億円という金を使って流域を壊滅させる恐れのある川辺川ダムを造るより、そのお金で残りのダムを壊して元の球磨川に戻し山を再生させたらどうでしょう。蒲島知事は退任して川の流れと関係の無い所で住み、遅かれ早かれ亡くなりますが、球磨川はずーと居続けるのです、子供たちに流域の自然と美しい球磨川を遺すのが私たちの務めではないでしょうか。

あの水害から3年半も経つのに、知事は水害被害者から何を学んだのでしょうか？そして今日のわずか10分で何が言えるのでしょうか。何を聞こうと思っているのか？

聞くふりだけは止めてもらいたい。

終わり